

# うるとら Q

※空白セル部分に入力する

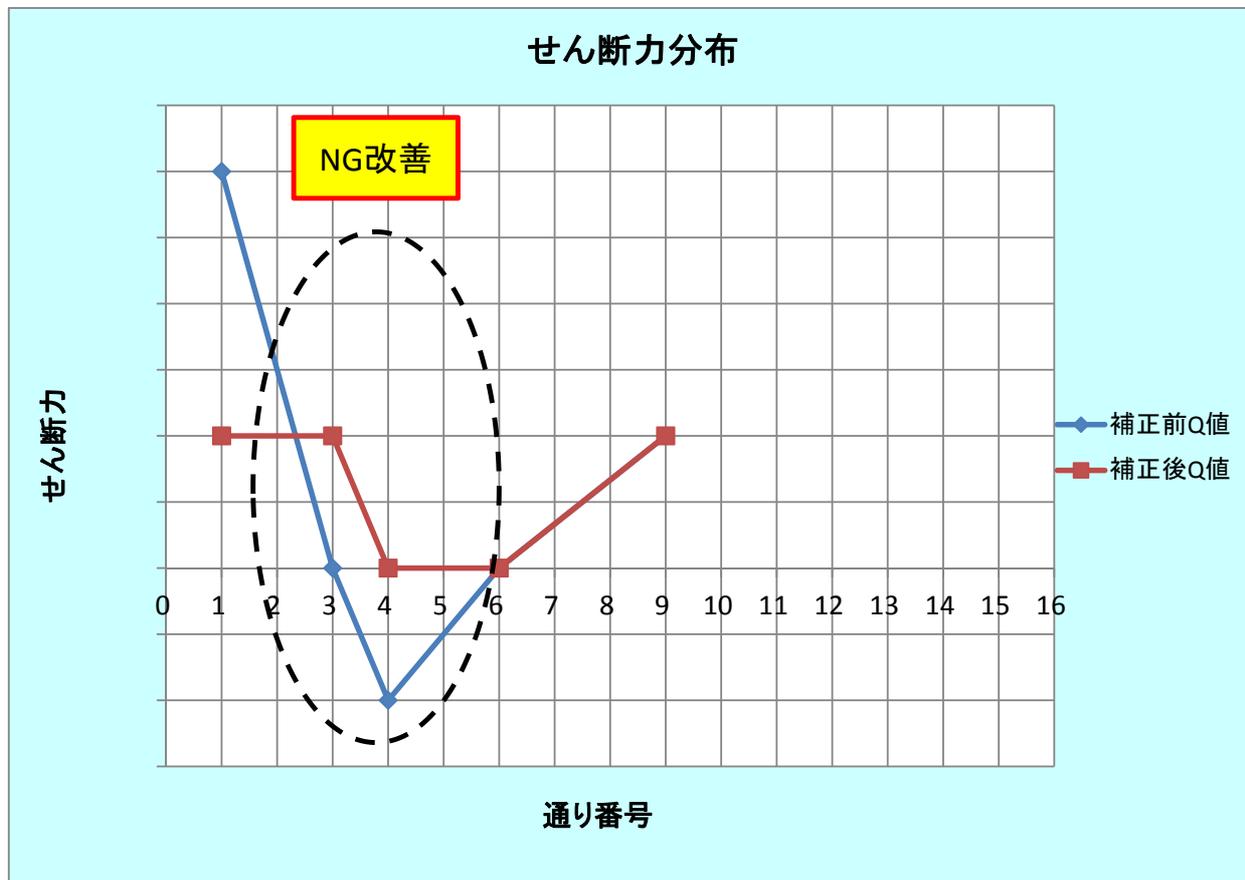
加力方向選択
Y方向
対象階
中間階

	補正前合計	補正後合計	耐力増減
上階耐力	6	6	0
下階耐力	9	9	0

連番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
直接入力															
通り記号	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ
上階耐力	1		1	1		2			1						
下階耐力	4		1			2			2						

通り番号	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ
補正前Q値															

通り番号	い	ろ	は	に	ほ	へ	と	ち	り	ぬ	る	を	わ	か	よ
検討の有無	1		1	1		1			1						
上階補正值	1			-1											
下階補正值	-1		1												
補正後Q値															



水平構面「NG」は、構造計算の最後に残る関所。ここを上手に切り抜けなければなりません。  
水平構面攻略のツールを作成したので、その入力の手順を列記します。  
(※尚、ここでの検討は、水平構面のNG潰しを目的としていますので、精算とは異なります。)

### うるとら Q 手順

#### 1. 通り記号

- ①X方向は「いろは」、Y方向は「123」の通り番号を自動選択
- ②検討する対象床の選択
- ③通り記号を直接入力す場合は、直接入力の欄に入力する

#### 2. 水平構面NGとなっているスラブの上下階の壁耐力を入力する。

- ①上階の壁耐力を入力(最上階の場合はRF耐力入力)
- ②下階の壁耐力を入力(最上階の場合は無視)

#### 3. 判定がNGになっている部分の選択する。

- ①検討する通りは、「検討の有無」欄で「1」を選択する

#### 4. 壁耐力の補正を行う。

- ①入力欄下のせん断力分布図をみて、補正を行う
- ②曲線を極力平坦にする
- ③補正後の合計耐力は±0に近いほど良い(右上の欄)

以上の結果をもとに、ソフトの壁耐力を修正していく。

但し、壁耐力の補正でもNGが残る場合は、床構面の階段や吹抜けに火打ちを入れる。

尚、屋根構面については、「火打ち範囲」アイコンをうまく使って火打ちを入れすぎないようにする。

火打ち一個所の負担面積は5㎡までにする。層間変形角は1/200程度、偏心率は0.1程度以下とする

以上

